

さとうきびの雑草防除について

(第3報) ハマスケの防除

前山豊健・美園中
(鹿兒島県農業試験場大島支場)

MAETAMA, T. and MISONO, A.
Weed Control in Sugar Cane Field

(III) On the control of purple nutsege *Cyperus rotundus* L.

はじめに

ハマスケの防除については2~3の報告があるが何れも裸地における防除法である。筆者らは、さとうきびの薬剤に対する抵抗性が強いことを利用し、さとうきび栽培下での防除について、昭和38年度より試験を

進めてきた。

試験方法並びに結果

試験Ⅰ 有望薬剤の検討(圃場試験)

供試品種は N;Co 310, 植付は39年8月8日。植付後ハマスケの発生をまって、表1の供試薬剤を散布し

表1 実験Ⅰの成績 (2区平均)

試験区名	項目	ハマスケ調査			さとうきび調査 (アール当)				
		重量	本数	群生数	精莖数	莖長	莖径	精莖重	Brix
無散布区		210.0	467.0	—	1,064	2.60	2.51	1,201	17.7
ATA30+MCP 20g/a		0.6	1.7	20	898	2.52	2.45	978	18.0
バンベル D 20g/a		6.1	12.3	130	898	2.44	2.48	993	18.7
2, 4 - D 15g/a		6.3	12.8	120	907	2.48	2.44	955	18.3

注 1) 薬剤散布はアール当り7ℓの水にとかし39年9月16日と同年10月14日の2回散布
2) 一年生雑草はDCMU10g/aで抑制した。(全区共通)
3) 雑草調査は41年5月26日(10m²)調査

た。収穫は41年2月16日に行ない、その後株出の圃場でハマスケの残存状態を調査した。

その結果を本数でみると、無散布区の467本/m²に対して、薬剤防除区は何れも3%以下の発生である。これをa当りの群生数でみると、20~130群程度で、この程度ならば簡単に手取りが出来る。しかしながら薬剤防除区は減収した。

試験Ⅱ ハイパーによる防除(裾試験)

38年の成績でハイパーはハマスケの殺草効果は大きい。さとうきびの被害も大きかったので、さとうきびの植付前防除について検討した。板框を使い試験区の構成は表2のとおりである。さとうきびの植付は8月10日、植付本数は1m²当り7本。

表2の結果から、74日前30g区、43日前15、30g区は手取り除草区よりも残草量が少なく殺草効果は極めて大きい。さとうきびの被害は、認められず、殺草効果の大きかった区の生体重は、手取除草区より多いく

表2 実験Ⅱの成績

試験区名	項目	ハマスケ(m ² 当)		さとうきび(1株当)		
		重量	本数	主莖長	莖数	生体重
74日前散布	7.5 g/a	688	175	23.0	3.2	47.5
	15.0	169	71	23.2	3.5	52.0
	30.0	51	23	22.4	3.7	53.7
43日前散布	7.5	472	131	22.7	2.9	44.2
	15.0	64	27	25.5	3.8	63.7
	30.0	58	20	23.7	4.3	59.7
無散布区 手取除草区		1,072	274	23.2	1.8	38.4
		102	47	23.7	3.3	52.1

注 1) 74日前, ヤマスケ発生始期
2) 43日前, " 生育盛期) 用水量7ℓ/a
3) 1年生雑草は全区CAT 5g/aで抑制

らいである。

一方無散布区の生育は、主莖長は各処理区と大差はないが、莖数が少なく、生体重が少ない。これらのことから、ハマスケの防除は、有効莖の早期確保を必要とする温暖地のさとうきび栽培にとって、増収上望ましい生育をもたらすといえる。